

自己評価結果公表シート

2017年度分

本園の教育目標

キリスト教信仰に基づき、幼児一人ひとりを大切に、親と子の育ちの場となるよう努めるものとする。

(施設の目的及び運営方針)

第2条 この幼稚園は、幼稚園型認定こども園であって、「日本基督教団信仰告白」に言い表されたキリスト教信仰に基づき、学校教育法第22条及び第23条に基づいて幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

2 本園は、社会の期待や願いに応えられる創意と活力のある保育活動をすすめ、園児・保護者・地域に信頼されるよう努めるものとする。

3 本園は、安心・安定した情緒と落ち着いた保育環境の中で、健やかで豊かな心と体が育つよう保育を行うものとする。

4 本園は、子育て支援と対話・相談を大切にし、親と子の育ちの場となるよう努めるものとする。

神様の守りと導きの中で、自らも子ども達から学び、共に生かされていることを喜び、祈りをもって保育を行う。子ども一人ひとりに対して丁寧に対応し成長を願う。縦割保育には高度な保育者の能力が求められる。自己満足・マンネリ化に陥らないよう常に努める。

1. 本園の保育の再確認

ア. 教育理念・方針、キリスト教保育について学び、園長を中心に教職員で話し合っ作成した「年間指導計画」に従って、毎朝聖書を読み祈りつつ保育を行った。朝と保育後の教師会で話し合い、子ども一人ひとりに配慮した月案・週案を立て、実践した。保育者個人の記録を、毎週行われた教師会で共有したが、書記を立てて記録するよう、なお工夫が必要である。

イ. 子どもも保育者もクラスの枠を越えた縦割・自由保育を行っている。異年齢の幼児が生活を共にする中で、子ども一人ひとりに対して丁寧な発達の見取りと対応が目指された。保育者が問題を解決するのではなく、子ども同士が時間をかけて互いの心を大切に受け止め合うための話し合いの時をもつようにし、保育者が必要に応じて間に入って橋渡しをした。子ども達は互いに学び合い、協力し合い、競争し合い、切磋琢磨しながら心身ともに成長したが、保育者はその傍らに寄り添い、全員で共通理解をもって子どもに関わることができるよう、子どもの実態や周囲の状況の変化に対応するよう努めた。各年齢ごとに体験することが望ましい活動や、発達段階に応じた遊具や用具・素材の研究をたえず行う必要がある。子どもの見取りの学びは園内研修に加え、外部研修・書物による学びを行った。外部研修の報告をし、学びを共有するようになった。

ウ. 学期ごとに保護者会を開き、園の方針・行事について説明し、また意見をいただいて、相互に信頼と理解を深められるよう努めた。

2. 園の施設、設備、遊具等の安全点検、施設設備の総点検

ア. 子どもの情緒を育む絵本を購入した。

イ. 火災による避難訓練だけでなく、大規模地震を想定した避難訓練を行った。また一時避難生活を見込んだ必需品として水・非常食を設置した。

ウ. 真夏日が多くなり、昼寝をする一階ホールが暑くなるため、熱中症を予防するため冷房機器を使用した。

3. 子育て支援、家庭支援体制の再構築

ア. 子育て支援として「こひつじ広場」を満1～2歳、満2歳～就園前の二グループに分けて行い、それぞれ内容を充実させた。年齢で分けたことにより、子育ての悩みの相談や共感がしやすくなり、保護者同士の交流の場としても機能した。

イ. 認定を受けていない満2歳児を受け入れ、教育的意図を持って保育を行った。集団に目覚めゆく中で、自己肯定感が育まれた。

4. 保育の質の向上、研修の充実

園内研修では元小学校長の小野晃男氏の協力を得て、保育の質の向上をはかった。また外部研修に積極的に参加し学んだ事の共有に取り組んだ。園内研修のまとめを全日本私立幼稚園連合会の開催した平成29年度東海北陸地区 私立幼稚園教育研究 福井大会と、長野県幼児教育研究協議会の開催した長野県幼児教育研究大会東信大会にて発表した。これらを通して、自園の縦割・自由保育、キリスト教保育への理解を深め、実現への新しい意欲と課題とを持つことができた。

5. 小学校との接続期の保育、幼小連携のあり方の再確認

卒園児が進学した小学校との幼保小連絡会には本園から必ず参加し、連携をとっている。指導要録抄本を届け、必要があれば小学校からの関係する先生方の来園を受け、また小学校への訪問をして、卒園児の成長理解への協力をした。